

高齢者に向けた防災教育の実践とその効果

○(株)荒谷建設コンサルタント 山下祐一
中電技術コンサルタント(株) 古川 智
復建調査設計(株) 藤本 睦
(株)ヒロコン 青原啓詞

1. はじめに

日本各地で毎年のように多くの土砂災害が発生し、各地で大きな被害が発生している。中国地方でも同様に、このような土砂災害による被害を軽減するための社会貢献活動として、(社)建設コンサルタンツ協会中国支部では防災教育を実施している。これまで、広島市内の高齢者を対象とした土砂災害に対する防災教育を行ったので、防災教育の内容や結果及びその効果などについて報告する。

2. 防災教育の必要性

地域の防災力を向上させるためには、人・技術・データの各項目を改善することが重要とされている。特に、人についての課題が顕著であり、地域の研究者や技術者が不足していることや、地域住民の意識が不足していること及び防災にかかわる広報や防災教育も不足しているのが現状である。そこで、地域住民に対して防災に関する実務専門家が実際に地域活動の中に入り、防災教育を行ってきた。防災教育は、小学校や中学校での活動のほか、高齢者や自主防災組織を対象とし、平成 17 年度より実施している。ここでは、これまで 6 箇所で開催した高齢者に対する防災教育結果について取りまとめる。

3. 高齢者に向けた防災教育

高齢者の防災教育は、平成 17 年～20 年にかけて、広島市安佐北区の高陽地区、安佐地区、亀山地区、戸坂地区、広島市西区己斐地区で行った。これらの地区には過去にも災害が多発している地区があり、参加者の中には災害経験者も参加していた。

防災教育は(財)広島市ひと・まちネットワークの共催事業として登録し、その講座内容が広島市の公民館に掲示され、公民館から講座希望が寄せられて実施している。これまでの高齢者(65 歳以上)の実施箇所、参加者は次のとおりである。

平成 17 年度	広島市安佐北区高陽地区	16 名
平成 18、19 年度	広島市安佐北区安佐地区	8 名、27 名 (合計 35 名)
平成 20 年度	広島市安佐北区亀山地区	55 名
平成 20 年度	広島市安佐北区戸坂地区	48 名
平成 20 年度	広島市西区己斐地区	22 名

防災教育は「みんなで考えよう土砂災害」という題目で、講義と演習に分け、演習を中心に実施した。

講義は土砂災害と警戒・避難について話をした。土砂災害は、土石流とがけ崩れを中心に、近くで発生した災害事例と危険箇所を紹介し、警戒・避難は雨量情報と土砂災害の関係や避難情報の種類などを説明した。

演習はハザードマップの作成を行った。ハザードマップ作成はまず自分の家の場所を探した上で、土砂災害危険箇所の図面作成、避難所の位置や避難路の確認を行った上で、それらの成果をグループ毎に発表した。ハザードマップ作成では、これまでの災害経験から、「この場所が崩れた」「土砂はこの付近まで到達した」など具体的な被害事例もたくさん聞くことができ、防災教育をする上での参考となった(写真—1,写真—2)。

ただし、いずれの地区も至る所が土砂災害の危険箇所になっており、事前避難が欠かせないことが明らかとな



写真—1 ハザードマップ作成状況



写真—2 ハザードマップ作成結果発表

った。

最後のまとめの時には、実際に災害で親族を亡くされた方が、そのときの避難方法について話をされた。防災教育を終えて強く感じたことは、高齢者の方の中には災害を直接経験された方が多く、その経験を整理してまとめ、若い人たちに伝えていけば、自然に災害は軽減できるのではないかと考えた次第である。

4. 防災教育アンケート結果

広島市安佐北区安佐地区、亀山地区、広島市西区己斐地区でアンケート調査を行った（図-1）。防災教育を受けた3箇所合計112人に対し、回答頂いたのは105人、回収率94%であった。授業の理解は98%の方が「分かった」と答え、感想にも「分かり易かった」と書いて下さった方が多かった。授業の量も「ちょうどよい」と答えた方が84%、「少し多い」が10%であり、量的にもほぼ満足されたと思われる。これはこれまでの災害の経験が理解を深めていると思われる。

「最近災害が起こりそうだ」と感じた人は59%と高く、そのうち台風と大雨が86%、地震が14%となり、土砂災害への関心の高さが示された。今まで実際に避難したことがあるかについては11%の人があると答えた。

避難所の位置や避難路に関しては90%以上の方が知っていると答え、雨量や災害情報についても68%の方が知っていると答え、授業の成果が表れたものと考えられる。

アンケート調査の感想として「大体わかった、聞いて良かった、危険な箇所がわかった」が多くを占め、具体的な感想として次のようなものがあつた。

「地図を使って作業したので、避難場所や経路などがよく理解できました。」「我が家は大丈夫と思っていたが、危険箇所に入っていることを知って今後家族とともに話し合いたいと思います。」「有意義な講座であつた。親切に教えてもらった。できれば、各年齢層にも受けさせたい。」「何れにしても災害が非常に起こりやすい地球に住んでいるので、日頃から気を付けて行動しなければと感じています。このような講話等には積極的に参加します。」

5. まとめ

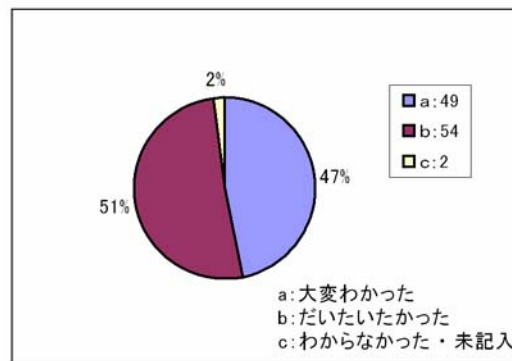
高齢者に向けた防災教育の取り組みの結果と成果などは次のようにまとめられる。

- ② 高齢者の方は災害に関する関心が高く、演習にも積極的に参加される。
- ② 高齢者の方は災害経験をよく覚えており、災害や警戒・避難の理解も深く、貴重な体験も多くある。
- ③ 土砂災害危険箇所が連続するところでは、どう避難するか課題が残った。
- ④ これまでの災害経験を通して、自分達の地域の危険箇所を絞り込むことも可能である。
- ⑤ 高齢者で元気な方は、地域の災害軽減の語り部として活躍できる人がある

高齢者は災害時要援護者として位置づけられているが、災害経験のある元気な高齢者は、防災情報や防災ネットワークを構築する上でどのように活用するかも今後の課題と考えられる。

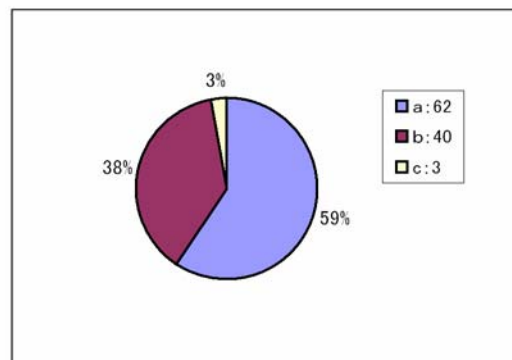
講座の内容はどれくらい
理解できましたか？

(回答者:105)



最近災害が起こりそうだと
感じたことはありますか？

(回答者:105)



今日の講座を聞いて災害が起こりそうな
時、うまく避難ができると感じますか？

(回答者:105)

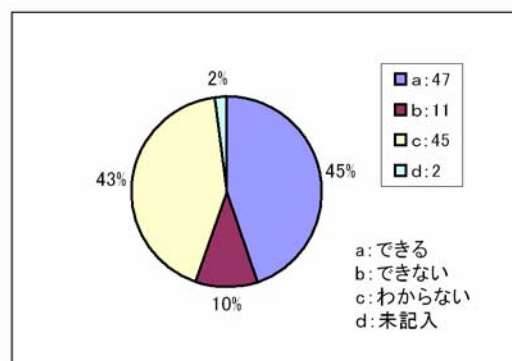


図-1 防災教育アンケート結果